

③ 3・4年生 | 「ことばの学習」

辞書と友達になろう ～辞書のおもしろさを知ろう～

○ 日本語ブームの中にある子どもたち

携帯ゲーム機の日本語に関するソフトは、子ども以上に大人が購入しているそうです。子どもたちが「電子辞書」を欲しがらなくなった背景にも、こうした日本語熱があるのかもしれませんが。小学生向けの国語辞典も大きく様変わりしています。ルビはもとより、コラム欄の充実や、多数の写真や図を取り入れたビジュアル化が進められていて、読み物として通用しそうな辞書もあります。

そこで、今回は「知っている」つमりの「辞書の引き方」にクイズ感覚で挑戦させながら、調べる楽しさを感じさせる方法を紹介します。

○ 次の言葉を辞書で調べるとしたら？

全員分の辞書を用意します（家からの持参も可）。「皆さんはこれまで、わからない言葉が出てきたときに、お母さんやお友達に聞いたりしてきたのではありませんか？」などと投げかけると、「辞書で引けるもん」などと答えが返ってきます。「じゃあ簡単すぎたかな？」と言って始めてみましょう。

《レベル1》「辞書に出てくる順番に番号を書きましょう」

	児童の予想	正解	
① () おせんべい	2	3	(せんべい)
() おみそしる	4	4	(みそしる)
() おかず	1	1	
() おとうと	3	2	
② まっか まつげ りゆう りゆう			
③ ホース ポスト ポール ポール			

出てくる順番の予想を発表させてから、実際に確かめる方が効果的です。子どもたちは我先に引こうとしますが、「この辞書には載ってない！」などと文句を言い始めます。しかし、引き方がわかるにつれて、今度こそはと意欲が湧いてくるようです。

○ 「バレエ」と「バレー」はもう大丈夫だね？

《レベル2》「辞書に出てくる順番に番号を書きましょう」

	見出し語	正解
() 絵をかいた。	描く	2
() かさをかった。	買う	1
() ガムをかんだ。	かむ	4
() においをかぐ。	かぐ	3

辞書に載っている言葉を「見出し語」といいます。特に動詞の場合は「かかない」「かきます」など全ての活用形や音便を載せるわけにはいかないのて、基本形が見出し語になっていることを学習します。

ここまでの仕上げとして、長音や拗音・促音の扱いなど、「凡例」（この辞書の引き方、使い方）の解説ページを読ませてもいいでしょう。

○ 辞書って頼りになるお友達でしょ？

《レベル3》「辞書で意味を調べてみましょう」

- ① ほうりなげる（複合語）「ほうる」＋「なげる」
- ② しゅうかん（同音異義語）⇒類義語の学習
- ③ 明るい（文脈理解）⇒対義語の学習

複合語の扱いが辞書によって異なることや、サ変動詞（○○する）について触れてもいいでしょう。

次に同音異義語が並ぶ事例を用いて、一度にいくつもの言葉の学習ができることを伝えます。さらに、習慣、週間に並ぶ、「週刊」を説明するときに、「では、毎月だったら？」「月刊」「他には？」などと問いかけると、日刊、月刊、季刊、年刊、朝刊、夕刊などの言葉が続々と出てくるはず。最後は、ひとつの言葉でいくつもの意味が載っている例を挙げ、文例などから「文脈に合う意味を見つける」といういちばん大切な学習を行います。

「辞書ってすごい」「辞書と友達になっておくといいな」など、感想を紹介して、まとめとしましょう。